

# Icahn School of Medicine at Mount Sinai 留学報告

平成 29 年 2 月 20 日～3 月 28 日

福島県立医科大学  
医学部 5 年 町田萌子



この度私は、アメリカ合衆国ニューヨークの私立病院 The Mount Sinai Hospital の内分泌科で5週間、病院実習をさせていただきました。このレポートでは、実習の様子やその中で学んだことをご報告します。

## 目次

1. The Mount Sinai Hospital
  - 1) The Mount Sinai Hospital 概要
  - 2) 米国の医師研修制度
  - 3) 内分泌科での実習
  - 4) 胃切除術の外来・手術見学
  - 5) ER (救急科) 見学
2. Icahn School of Medicine at Mount Sinai
  - 1) 医学教育
3. 92Y Residence
  - 1) 概要
  - 2) 部屋と生活フロアの様子
  - 3) レジデントたち
4. アクティビティ
  - 1) スーパーマーケット
  - 2) カフェ
  - 3) 図書館
  - 4) ミュージカル
4. まとめ
  - 1) 医療について

## 1. Mount Sinai Hospital

### 1) The Mount Sinai Hospital 概要

Mount Sinai Health Systemには7つの病院と1つの医科学校 (Icahn School of Medicine at Mount Sinai) が含まれ、それぞれの病院・学校が連携してニューヨーク州マンハッタン島を中心とした都市部の医療に貢献しています。病床数はシステム全体で3468床、医師数(専門医、総合診療医含む)7000人以上、外来患者数約3,100,000人/年となっています。総合病院だけでなく、300以上の診療所や開業医とも提携を組んでいるため、病床数に対し医師数の多さが目立ちます。システム内ではEPICという電子カルテで情報を共有しています。これを使うことで他の病院や診療所から照会された患者さんの以前のデータも簡単に参照できるようになっており、EPICは施設間の連携の要となっています。

私が実習をさせていただいた The Mount Sinai Hospital はシステム内の7つの病院のうちのひとつで、マンハッタン島のアップパーイーストサイド (Upper East Side) とイーストハーレム (East Harlem) の境、セントラルパークの北東の地域にあります。1852年に複数のユダヤ教の慈善団体によって設立された、160年以上の歴史のある病院です。現在は病床数1144床の三次医療病院として活躍しています。U. S. News & World Reportによる2016~2017年の“Best Hospitals”という全米の分野別病院ランキングには、糖尿病・内分泌科 (Diabetes & Endocrinology 11位)をはじめ11の分野で50位以内と掲載されました。



The Mount Sinai  
Hospital

←マンハッタン島の地図

(<http://www.nyc tourist.com/map1.htm>)

● Mount Sinai Health System内の病院

## 2) 米国の医師研修制度

米国の医師は医学学校を卒業した後、一人前の医師 Attending になるために、Residency と Fellowship の2つのステージをキャリア形成の過程で踏みます。それぞれのステージにいる医師を Resident と Fellow と呼びます。Residency は医科学校卒業後すぐの数年間に行う日本の初期研修のような過程ですが、必修科目はなく、自分の興味・目標に特化したプログラムを選ぶことができます。Residency、Fellowship ともに病院内で様々なプログラムが用意されており、病院を選ぶというよりはプログラムに申し込む (Residency の場合マッチングする) 形になります。プログラムの例として The Mount Sinai Hospital での Residency では、一般内科、一般外科の他、診療科別のプログラム、心臓・一般胸部外科にフォーカスしたプログラム、臨床も経験しながら公衆衛生の修士を取得できる予防医学のプログラム、神経内科の臨床と研究が両方できるプログラムなどがあります。内容も多彩ですし、選んだプログラムによって研修期間の長さも異なります。ピンポイントで自分のやりたい分野・働き方が選べる点、そしてそれだけに集中することができる点が日本の初期研修との大きな違いだと思います。医師としてのキャリアを自分仕様にカスタマイズしやすい、個性を出しやすい環境であると感じました。

(<http://icahn.mssm.edu/education/residencies-fellowships/list>←Mount Sinai Health System 内の Residency と Fellowship のプログラムが検索できます。)

## 3) 内分泌科での実習

### 〈Inpatient Consultation Service (院内)〉

内分泌科では主に、他科からの内分泌異常の相談や、糖尿病・中心静脈栄養の管理の依頼に対応する Inpatient Consultation Services をしている1年目の Fellow の先生方に付いて実習しました。1年目 Fellow の先生は4名いらっしゃり、Inpatient Consultation Service である①内分泌疾患担当、②糖尿病管理担当、③中心静脈栄養担当、そしてブロンクスにある④James J. Peters VA Medical Center という軍人のための病院への勤務の4つの仕事を1カ月交代 (④だけ3カ月交代) で行っています。そのうち、①が一番多くの種類の疾患を診れるということで、私たち含め内分泌科で実習をする学生や初期研修医は主に①の内分泌疾患担当の先生から教わりました。

内分泌科は専用の病床を持たないため、Consultation Service では病棟内の様々な科の病床に散らばる患者さんの元へ医師が移動して診療します。内分泌疾患で一番多かったのは甲状腺ホルモンの異常でした。その他には、汎下垂体機能低下症、尿崩症、低カルシウム血症などが多くみられたように思います。



↑お世話になった内分泌 Fellow の先生方。ドイツやイスラエルから来ている先生方もいらっしゃいました。(左から Vanessa Narwani 先生, 町田, Pedram Javanmard 先生, Gad Shlomai 先生, Stephanie Behringer-Massera 先生)

### 〈Endocrine/Diabetes Clinic (外来)〉

週に3回、外来の時間がありました。専用の建物があるので、そこへ移動します。私たちが付いていた Fellow の先生方の外来は Clinic と呼ばれ、診るのは Medicaid (低収入者のための保険) の患者のみで、診断や治療方針などを最終決定する前に必ず Attending (専門医) に相談していました。また、甲状腺の超音波検査や生検をするときは、その日の超音波検査担当 Fellow が診察室とは別の専用の部屋で行うため、患者は待たされてしまいますし、移動の手間もあります。一方、民間保険と Medicare (高齢者のための保険) に入っている患者は別の建物で Attending が直接診てくれます。こちらは Faculty Practice と呼ばれていました。超音波検査や生検も診察中に Attending が行ってくれます。それぞれの建物の様子も異なり、Clinic は質素で必要最低限なものがそろっている建物である一方、Faculty Practice は見た目にも配慮して木目調のきれいな内装でした。保険の種類⇨収入の程度によって、受けられるサービスが大きく異なる様子に驚きました。



↑Clinic の診察室の様子。患者さんは机の横の椅子に座ります。医師が机に向かって座ったまま患者さんと顔を合わせて話ができます。診察室は完全な個室で、外から会話は聞こえません。



↑Faculty Practice にあった患者用の診察台。左端に超音波検査の機械が見えています。

### 〈Conference/Grand Rounds〉

Conference では研修医向けに専門医の先生方が交代でトピックごとにレクチャーしてくれます。Grand Rounds は最新情報や自分の得意分野をテーマとした情報交換会で、専門医の先生方も出席されます。



↑糖尿病の Grand Rounds の様子。この回ではうまくいかなかった糖尿病治療（入院患者）のケースを挙げて、どこが問題だったか、どこをどう改善したら良いかを話合いました。外来に関しては糖尿病患者の No-show rate（予約していた診察に来なかった割合）が高いことが問題らしく、予約日の数日前に電話やメールを入れたり、次回診察までの期間を短くできないか考え直したりなど工夫して、少しですが改善が見られたようです。



↑お昼の Conference の様子。サンドイッチやクッキーが出たりしました。

〈内分泌科のスケジュール〉

	月	火	水	木	金
8:00	Attending		Attending		Attending
8:30	Rounds	Grand Rounds (一般内科)	Rounds	Grand Rounds (糖尿病)	Rounds
9:00	Clinic (糖尿病)	Inpatient Consultation Service	Inpatient Consultation Service	Inpatient Consultation Service	Inpatient Consultation Service
9:30					
10:00					
10:30					
11:00					
11:30	Conference (代謝/栄養)			Conference (内分泌)	
12:00					
12:30	Inpatient Consultation Service	Inpatient Consultation Service	Inpatient Consultation Service	Clinic (内分泌)	Clinic (糖尿病)
13:00					
13:30					
14:00					
14:30					
15:00					
15:30					
16:00					
16:30				Grand Rounds (内分泌)	



17:00					
-------	--	--	--	--	--

## 2. Icahn School of Medicine at Mount Sinai

### 1) 医学教育

アメリカに「医学部」は存在せず、代わりに医科学校があります。学生は、まず4年制大学を卒業し、その後医科学校に入学します。この際、大学での学部・専攻は問われません。例えば、今年度福島医大に留学する Halley と Jake はそれぞれ認知科学とスペイン語を専攻していました。大学では生物学や化学を全く取らなかったため、医科学校に入ってから科学分野を専攻していた学生たちよりも勉強に苦労はしているが、医科学校では学べないことを大学で学びたかったのだと言っていました。二人とも、自分の大学時代の経験をとても大切にしています。この二人だけでなく、大学時代の経験はアメリカの医学生のアイデンティティの大きな部分を占めていて、学生のオリジナリティーを生み出すことに大きく貢献しているように感じました。このオリジナリティーによりそれぞれ独特の視点を持つことが促され、研究と臨床双方において、発想の転換や新しいアイディアの創造による医学の発展に寄与しているのではと思いました。

医科学校は4年間あります。1, 2年目は主に講義と試験を受け、3, 4年生は病棟で実習を行います。実習は1年間で4ブロックに分かれていて、何をいつ取るかは自分で希望を出せます。去年福島に留学した Jacob は、外科に興味があるので、最初のブロックで一般内科 (Internal Medicine) を取り、2ブロック目で外科を取りたいと言っていました。1ブロック目で実習に慣れて、2ブロック目に自分が一番興味がある分野を選ぶことが多いそうです。1ブロックは12週間あり、3分の2がその分野の固定カリキュラムで、残りの3分の1が選択になり、そこでメインとして取らなかった分野の実習を行うそうです。実習カリキュラムが固定され、すべての分野について等しく実習する日本の教育との違いに大変驚きました。

### 2) 講義

私たちは2年生の内分泌 (原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、MEN) の授業に出てみました。講義は録画されインターネット上で学生に配信されるため、ほとんどの学生は講義には出ず自宅や図書館で講義の録画を見ているようです。この授業では出席していた学生は140名中7名でした。講義の録画は何度も見返すことができ、早回し、一時停止など自分のペースで受けることができます。また、試験もインターネット上で行われます。ほとんどの週末にはその週の内容の試験があるため、勉強を疎か

にすることはできません。金曜日の夕方から日曜日の夜までの好きな時間に受けてほしいそうです。



### 3) Small Group Discussion

こちら週に2回ある2年生の授業です。14名で1グループとなり、先生1名に指導を受けながら具体的な症例の評価・診断とともにその疾患の重要事項を確認する設問に答えていきます。アウトプットのコ機合が日常的にあることで勉強のモチベーションにつながり、さらに自分の知識があいまいなところも発見・補充できます。またこの学習方法は症例をベースにするので、臨床に出た際のコ考え方をよく身に着けられるのではないかと思ひました。



#### 4) 日本の医学生との違い

新しいどちらの授業でも、学生全員がパソコンを開いていました。講義に出ていた一人の学生に聞いてみたところ、彼女は一問一答の暗記カードを作りながら講義を受けていると言っていました。Small Group Discussion では症例と設問の載っている配布資料がデータで配布されているようで、その資料にメモや設問の答えなどを書き込んでいるようでした。全員、とてもタイピングが速いです。このように学生のうちからパソコンを多用することは、勉強の効率化と、将来電子カルテを書く際の練習にもなっているように思います。講義やテストをはじめ、学生の勉強の仕方、従来の方法にこだわらず使える技術はどんどん使っていくという姿勢は見習うべきだと思いました。

1, 2年生のころから OSCE のような臨床手技をトレーニングする機会があります。この際、トレーニングされた模擬患者さんを診ることができ、診た患者さんについて指導医に報告します。これを1年生のころからアウトプットを何回も行うので、プレゼンテーションの力が付きます。

総じて、病院に出るためのトレーニング・教育が重視されているように感じました。

## 2. 92Y Residence

### 1) 概要

92Yは講演やパフォーマンス、教室などを開いているコミュニティセンターです。ジムも入っています。92Y Residenceはそこに併設された若者向けの長期滞在のための施設で、主に学生が滞在しています。

## 2) 部屋と生活フロアの様子

個人の部屋には、ベッド、机、クローゼット、タンスがあります。同じフロアには共用のキッチン、洗面スペース、トイレ、シャワーがあります。キッチン用品（お鍋や包丁、まな板）は提供されていないので、私はMount Sinaiの学生に借りました。コンロはガスでなく電気のため火力調節が難しく、お米を買って炊いてみましたが全然おいしく炊けませんでした…



## 3) レジデントたち

92Yには様々な学生が集まっています。私のフロアにいた人たちはほとんどがHunter大学の学生で、オーストラリアやスペインからの留学生や、会社のインターンでSNSの商業的活用法を学びにHunter大学に来ているという方もいました。一番仲良くなったGildaは、メキシコから演技を学びにやってきました。



↑早起きな Gilda。毎朝キッチンに行くと一日分のご飯を作っていました。

### 3. 生活・観光

#### 1) スーパーマーケット

私は海外に行くとスーパーマーケットに行き、見たことのないものや、現地の人々の日常を垣間見ることが好きです。今回もいろいろなスーパーマーケットに行ってきました。

ニューヨークのスーパーマーケットは品物の種類が豊富でカラフル、かつヘルシー志向だという印象でした。リンゴは10種類以上置いてありますし、その他ポテト、トマトなども品種が多くそろえてありました。また、日本では見ない野菜（バターナットスカッシュ、ビートなど）も置いていて、色鮮やかな野菜がたくさん積まれた光景にわくわくします。また、ユダヤ教で定められた食べ物の規定であるコーシャーと認可された食品や、牛乳の代用品のアーモンドミルク、ピーナッツバターの代用品のアーモンドバターなども豊富な品ぞろえで、宗教や文化、流行、アレルギーなどさまざまなニーズに対応しています。日本の食品も少し置いてあり、しらかきがミラクル・ヌードルという商品名で売られていました。



↑ コーシャーと認可された冷蔵商品の棚。



↑牛乳と代用飲料、ヨーグルトの棚。種類と量がとても豊富です。

## 2) Upper East Side

92YのあるUpper East Sideは高級住宅街です。ほとんどのアパートやマンションにはドアマンが立っています。観光地の多いダウントウン（南の地域）からは離れていますが、落ち着いた雰囲気、暮らすのにはとても居心地の良いところでした。物価が高いところが唯一難点です。

## 3) 観光

私の一番のお気に入り、ブルックリンブリッジのブルックリン側からの景色です。川を挟んで、マンハッタンの超高層ビル群を一望することができます。遠くに小さくですが、自由の女神も見ることができました。写真は表紙に使っています。

ミュージカルは、割引チケットを当てたCATSと、ブルーマンショーを見てきました。中休みやショーの終わりに役者の方と記念撮影ができ、観客と役者の距離が近いことが印象的でした。特にブルーマンショーでは、観客がステージに上げられたり、ブルーマンたちが客席に乗り込んできたり、客席をトイレトペーパーでいっぱいにして騒いだりと、会場全部がステージのようでとても楽しかったです。このような奇抜なエンターテインメントが可能なのは、柔軟なアイデアはもちろんですが、新しい試みが受け入れられる文化があることが大きいのではないかと思います。